

世界を驚かせた日本人 東日本大震災

●世界から絶賛された冷静沈着さ

2011（平成23）年3月11日の東日本大震災は、深刻な被害をもたらしました。そのいっぽう、被災者の冷静沈着な行動は、外国の人々の感嘆と称賛的となりました。

アメリカの新聞ニューヨーク・タイムズは「日本人がこうした状況下で、米国のように略奪や暴動を起こさず相互に助け合うことは全世界でも少ない独特の国民性であり、社会の強固さだ」と評しました。

韓国のメディアも被災地の住民たちが「お先にどうぞ」「いえ、私は大丈夫です」と声を掛け合って、譲り合いの精神を忘れずに対応し、怒号が飛び交うこともなかった、と称賛する現地ルポを伝えました。

●自己犠牲の精神が命を救う

宮城県南三陸町の職員で危機管理課に勤めていた遠藤未希さん（24歳）は、巨大津波が迫る中、防災無線で「6m強の波があります。早く逃げてください」と住民に避難を呼びかけつづけ、みずからは津波にのみ込まれて亡くなりました。遠藤さんの母親をふくむ多くの住民が、彼女のよびかけによって命を救われました。

災害出動した自衛隊員や警察官の献身的なはたらきも特筆すべきものでした。天皇陛下（現上皇陛下）は、地震発生5日後に国民へのメッセージを出され、次のように述べられました。「自衛隊、警察、消防、海上保安庁をはじめとする国や地方自治体の人々、救援

のために諸外国から来日した人々、国内の様々な救援組織に属する人々が、余震のつづく危険な状況の中で、日夜救援活動を進めている努力に感謝し、その労を深くねぎらいたく思います」

●歴史に育まれた日本文化の特質

「日本社会に根づく義務感、逆境での品位、謙虚さ、寛容、勇気」（スペイン）、「無私の心と不動の献身」（アメリカ）、「武士道精神」（台湾）など、世界の人々は日本人の国民性と資質を高く評価しました。

こうした国民性は、日本の歴史の中で育まれた文化です。日本人は縄文時代以来、豊かな自然の恵みのもとで、温和な性格を備え、和を大切に、助け合いと支え合いの文化をつくりあげてきたといわれています。こうした歴史の蓄積を失わずに受けついでいくことを、私たちは心に誓いたいものです。



遠藤未希さんの自己犠牲を報じた新聞記事（「河北新報」2011年4月12日）と、津波被害を受けた直後の南三陸町防災庁舎

